



志義太平記

五

遠 13
1477
5



門へ 13
第
卷

忠義大平記大全巻之第五

目録

海防の善法と海軍の切なる事

由緒の助成計とこの事

海軍の善法とこの事

盟約の善法とこの事

日本海軍の善法とこの事

海軍の善法とこの事

吾野勘平坂こゝろつ小のりこゝろ住事

和列わり山賊やまざくを池田いけだとらふ

勘平かんぺい行傷いけがたかり自害じがいとらふ事

らうらう業ごう本孫ほんそん田たら密ひそかよのが事

大層おほいそ中ちゆうの助すけ百姓ひやくしやうををとらふゆゑ

中ちゆうの助すけ山科やまのけの居いををとらふ事

小寺こてら子月こげつ浪なみ賊野ざくのの業ごう居い事

子月こげつの跡あとをたふぬらに下向げかうの事

子月こげつががたつたつの書しよ海うみの事

忠義ちゆうぎ大平おほひら記き大合おほあひをを事こと五

海うみ知ちらら業ごう史し婦ふたたの切きり事

人ひととしてとして佐さかららんんのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

かかここひひゆゆんんのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

よよちちううとといいふふ事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

んんのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

海うみのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

ししのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

ととららふふ事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

よよのの事ことととああくくしてして物もののの事ことなり

がが事ことととああくくしてして物もののの事ことなり



よこたふれ。今も文をよまばくくもたゞくさぐさ。ののさのさのさなま
わらびたよひつゝいふにや。よへり地をくさくさす。ののさのさのさよ
やましのひさう天。やう天よのかり。けりんや。やう天。け
自在天。下の合傍。あ際よつら。あつくくく。あつく。なま
くのさ。まぞ。たう。縁。あつら。うら。裸。さ。よ。く。さ。い。い。な。こ。
が。よ。よ。き。ら。い。び。よ。つ。ら。び。ご。の。こ。い。の。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
は。ま。か。い。よ。さ。さ。い。い。よ。だ。び。い。ゑ。さ。の。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
ま。い。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
く。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ん。じ。ら。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。
で。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
と。年。伏。と。海。や。う。つ。ま。と。も。あ。ま。り。の。こ。い。あ。さ。さ。さ。さ。さ。

が。い。あ。ぐ。と。あ。い。い。い。い。か。ら。保。切。の。ゆ。ら。と。も。い。い。な。ま。じ
て。せ。ご。さ。の。の。あ。さ。く。く。く。そ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
く。き。ぐ。も。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ふ。美。の。ふ。る。ま。し。と。侍。り。惣。名。と。う。け。な。く。と。東。代。ま。ま。の。名。
あ。ま。い。と。ま。い。と。を。念。よ。な。せ。ら。ま。し。父。の。自。害。の。こ。ま。れ。ぬ。あ。ま。い
づ。つ。づ。つ。女。か。り。た。悪。の。な。あ。よ。ち。よ。死。い。は。悪。と。結。い
さ。あ。う。り。ん。と。存。し。つ。め。ぬ。ゆ。へ。が。は。は。は。合。よ。は。つ。と。か。く。い。悪。よ。あ
ん。ど。さ。せ。あ。い。を。礼。い。は。ゆ。か。し。ト。さ。あ。べ。い。は。う。ん。へ。い。つ。ら。あ
ひ。そ。う。ふ。う。ぬ。ら。ら。に。ら。り。何。と。ぞ。一。と。縁。と。り。と。め。尾。中。の。め
は。ま。る。よ。あ。り。お。お。な。る。の。あ。ま。い。の。ま。り。ぐ。の。あ。ま。い。い。い
ー。い
よ。う。け。わ。し。は。お。も。と。う。か。び。い。う。り。海。面。の。こ。い。は。う。い。い。これぞ

まじく小折のちきりてゆくとくはあつゆきとあら
 て。女姓の男として。くちんとあつゆきとあら
 かんぐへてゆ。あつゆきとあら。ふふとてたらしと
 とめ。危むどのく。なまよあひ。危この様神。なま
 のひき。くか。くつげ。あつゆきとあら。のちきり。あ
 くも。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 めてあつゆきとあら。海。あつゆきとあら。あつゆきと
 ぢい。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 より。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 どの。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 はあつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 一。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと

盟約

まじく味盟約のちきりてゆくとくはあつゆきとあら
 ぢい。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 亡。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 こ。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 う。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 ま。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 ろ。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 ひ。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 死。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと
 一。あつゆきとあら。あつゆきとあら。あつゆきと

けいこび大痛どうけいふとてのぐまんとさるべく療
者としていふと業病にせひしや。何とぞいふのを
つらき連判のみのどとさなふをびどのうつて。幸は
のいふがかりとぞ。あざんとたひひぬきつ。大切あふのちか
れどと。定業へのぐまどて。あつりさておしくと。病死せ
んをむねなれ。いづらうとあがり。胸死のふりちとて
せめてと悪の由原悪と。誰ぞんとあひあがり。今よりハ
めんが九十多とあつたため。此合悪あつと名のり。一味の
んくともふ。亡者のあてどうして。どが本懐とをさるべ
し。さるふふていふもいふもあひあがり。いふ切後せり。いふいふ
んぢみ錯せよ。いふいふと肌とぬげ。後十文ふようとい
切りならんといふ。いふいふ。あつりいふて。いふいふといふい

とたり。九十多ふおとらうといふて。とせぬうと。いふいふ
いむ南やと。いふいふと。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
わとどと。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
後かく。今時おとせぬと。せらへ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
葬送と。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
すらわいり

若地勤平なむようり伝事

いふ若地勤平の。東若地家よりう。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
丹下どのい害のほのな。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
里よりうりす。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
らり。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。
よつらり。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。

ことしはびつこう〜さしものほ〜いふまでといひうた。そ
もども彩いろどりけさなりしゆくもせあへともなふらあり。一七
たうまきりししよぐらうぶもあひわきぬ今いね命いのちも
あきありむき性しやうとらへき。はよのち後あとのとゞかれたわ
しとらうれわらう人ひとはととよ藤ふじのうこひあり。それぐ
しは男おとことありておしと強つよせんしと強つよくたのひとらむど
あつまじとえの所ところ懸まとがゆて強つよどづと今いそ
しつと甲かぶ懸まあつて所ところ掃はきたり。亡なの胸むね死しと強つよ
とをせんともありあり。中ちゆうよよの場ばめて。自じ害がいした
くおもひ〜うらさしび〜いふつゆふとあつて。せみく胸むね
中ちゆうよの危あやのやどそいふのあつてあつるふとあつ
せんともありひ。今までいふいふのびつらがほつといひよ

あつるとして。今年中いふ〜いふて死しとらうとらあれ
ばうらうずあげく〜あつてとて。ら〜く〜いふて死し
とあつてあつ。まれ死し〜あつてきつたよのらして。むこふのが
つと。小こ料りょうよたつ縁ゆかりゆいて。ゆきく胸むねよ〜いふ〜と。
わとの事ことたら〜く〜いふて。たらうら〜て死し〜とらひ。
お後の縁ゆかりあそわの道みちあり。お房ふさのたよあげ〜うら〜と
うた。ち〜う〜あつて。あつて。た場ば〜権けんのわ〜とあつ。
その〜ら〜の〜いふ〜いふ〜ら。小こ料りょうよのら〜。ゆきく胸むねが
いふ〜縁ゆかりゆい。たの決けつ身みと〜ら。の〜いふ〜いふ〜とせ
〜うら。ゆきく胸むねあつて。そのお後のやど〜とん
〜と。ゆきく胸むねあつて。ゆきく胸むねあつて。ゆきく胸むねあつて。
〜と。ゆきく胸むねあつて。ゆきく胸むねあつて。ゆきく胸むねあつて。

へせむらもどくくしととと。思ふ心のものごとくを。網
 みよくしわらうが。をかよよあこひて。おがくどたよよ
 ひづこあがり。大膝ひざくんで後きん幾いんと。そのうち答こたへ答こたへやう
 ば。由よし由よしし助すけうちこしひ。こいあもすも。播は志しよとををはる。さ
 りあぐら。りもや漁え居いかむかむむ。あしうのの免めん。居いななぐらこ
 れよはうりある。まま西せいのの赤せき申しん。ちうぐら藤ふじおの料りょう理りををれ
 だ。よくさう。せむえどああのの一い。時とき正せいとともうさう
 ちうぐらひ。え。なをともどめ百姓ひやくしやうだ。これあまりののこ
 と。うあ。わたるはくこぞと。ふよいうりあひひ居いよ。
 カ孫かみとらどめ地ちをを人ひと死し後ごのものどとあど。さあぐ
 礼れいとあ。か。たり。そのうちカ孫かみままへよして茶ちやとさけ
 ばよ。めとより田いん金ぎんのの免めん人ひとののことあれば。茶ちやののちあえど





ともてぬりくるが。棟梁ははしめぬがまじり。一乃志とて
 て。おれこふしうまりあ。六月のそであつて。由はしめ
 う子大器カ跡とあひともあひま揮あひとつて。穢
 社の草危とま出くるが。まじりともなるたて
 ねのいであしうのふれりもあまを
 こふし社のつらもともみよ
 累代平南時家の仕長かりしる
 わとれどかく百とあははく人そ
 せよふらうねまががまけと
 と。し前ううふま方のたもひのく。ともあははく
 母のよんく。まじりもあまのまじりもあまのまじりも
 まじりもあまのまじりもあまのまじりもあまのまじりも

とよあけで。秋の天井川のさざりけがよらぬとほ
し。後月橋と。月とともふらうりて。松ひのぬ
たけの。露とわらぬと。君とあいて。風雅とくせ
しよのぬがし

徳義大平記大全巻第五 終

